

ユリノキの町から 風の便り 76

2025 (令和7) /2/1.
八千代・ゆりのき台 辻 秀幸

チョウよんがに (昆虫綱 チョウ目) 参照: 第66、58、41号

ゆりのき台には本屋がない、風呂屋がない、特にチョウがいない、とあら探しは楽しい。というのは私の良くない癖だ。少ないながらチョウを写している。ご当地チョウ目の続編です。



← アオスジアゲハ (アゲハチョウ科)
2023/8/18. 八千代・ゆりのき台5. 「サニーハウス」 ナツツバキ

私にも、飛ぶ姿を一眼見ただけですぐわかるチョウの一つ。図鑑でも、似寄りのモノが載っていないので分かりやすいチョウ。

↓ ナミアゲハ (アゲハ) (アゲハチョウ科) 幼虫と夏型成虫
2024/9/4. 八千代・ゆりのき台5. ケーキ屋「ノリ」店頭



チョウをテーマにしてファッション界で名を成した人が居た。戦国武将大谷吉継の家紋の一つはチョウ。こういう時のチョウは揚羽蝶を意識しているように思うがどうだろうか。

ゆりのき通りの店の前のレモンの木です。このチョウは尾状突起などが欠けています。過酷な時間を過ごしたに違いない。疲れた体を休めに寄った所で感激の親子対面、とは撮影者の勝手な空想で、チョウにとっては大きなお世話というところだろう。

✓ クロマダラソテツシジミ (シジミチョウ科)
2024/10/29. 八千代・ゆりのき台5. 「サニーハウス」

母校の図書館で恩師に囲まれて甘やかされての勤務を良いことに、記録の一部と称して図書館内と周辺の昆虫採集を始めた。その時に、図書館前の草むらでシジミチョウを採集した。そして幾つかの種類が混ざりあってチラチラと舞っていることを知った。

採集した昆虫はドイツ式とかいう標本箱に整理して、図書館で管理していた鳥の剥製の展示棚の隅に収めた。学校が全面的に建て替えられた今も防腐剤を補充してくれているだろう。



イチモンジセセリ (セセリチョウ科)
2024/9/26. 八千代・ゆりのき台5. 個人宅生垣

チョウとガとはどう違うのか。幾つか挙げられるが、生物学的には別の「目」に分けるほどの違いは無いということになっている。見た目ではっきりチョウだガだと区別出来るものがある一方で、どちらとも即答できない中間のものがある。このセセリチョウもその一つといえよう。科の名前はチョウだけれど、ガだ、と言い張る人も多いのでは。



クロスジオオシロヒメシャク (シャクガ科)
2023/11/6. 八千代・大和田新田「八千代医療センター」南側入り口近くの個人宅生垣

ガと呼ばれるグループ所属。目立つ目玉マークに意味はあるのか。大目玉で天敵をびっくりさせるのだとか、目玉だと思って突っかかせてその隙に逃れて命だけは助かるうとするのだとか。たまたま出来たデザインについて人間が勝手に想像を働かせるだけではないのか。



しかし、タコは自分の目で周囲を見て体の色や形を変化させているらしいので、ガも意識して効果のあるような模様を身につけようと日夜励んでいるのだと考える余地もありそうだ。

ヨモギエダシャク (シャクガ科)
2023/8/13. 八千代・ゆりのき台5. ユリノキ

左写真はユリノキの幹。中央にガがいます。正体は右下写真。



ガと聞いて思い描くのはこういう姿・模様でしょう。夜に活動するものが多く、昼間はご覧の通りひたすら捕食者の目を逃れておとなしくしています。保護色とか隠蔽色とか言います。小鳥などの捕食者から身を守るためとされます。一方、小鳥や肉食昆虫としては餌が見つけられなければ生存が危うい。お互いに命がけの攻防に智慧をしぼっているのでしょうか。それとも遺伝子のプログラムに従って行動しているだけなのでしょうか。

幼虫の時に野菜や果樹を食べるので、人間から駆除対象にされていますが、なんのなんの、そんなことで絶滅するようなヤワな生き物ではありません。

